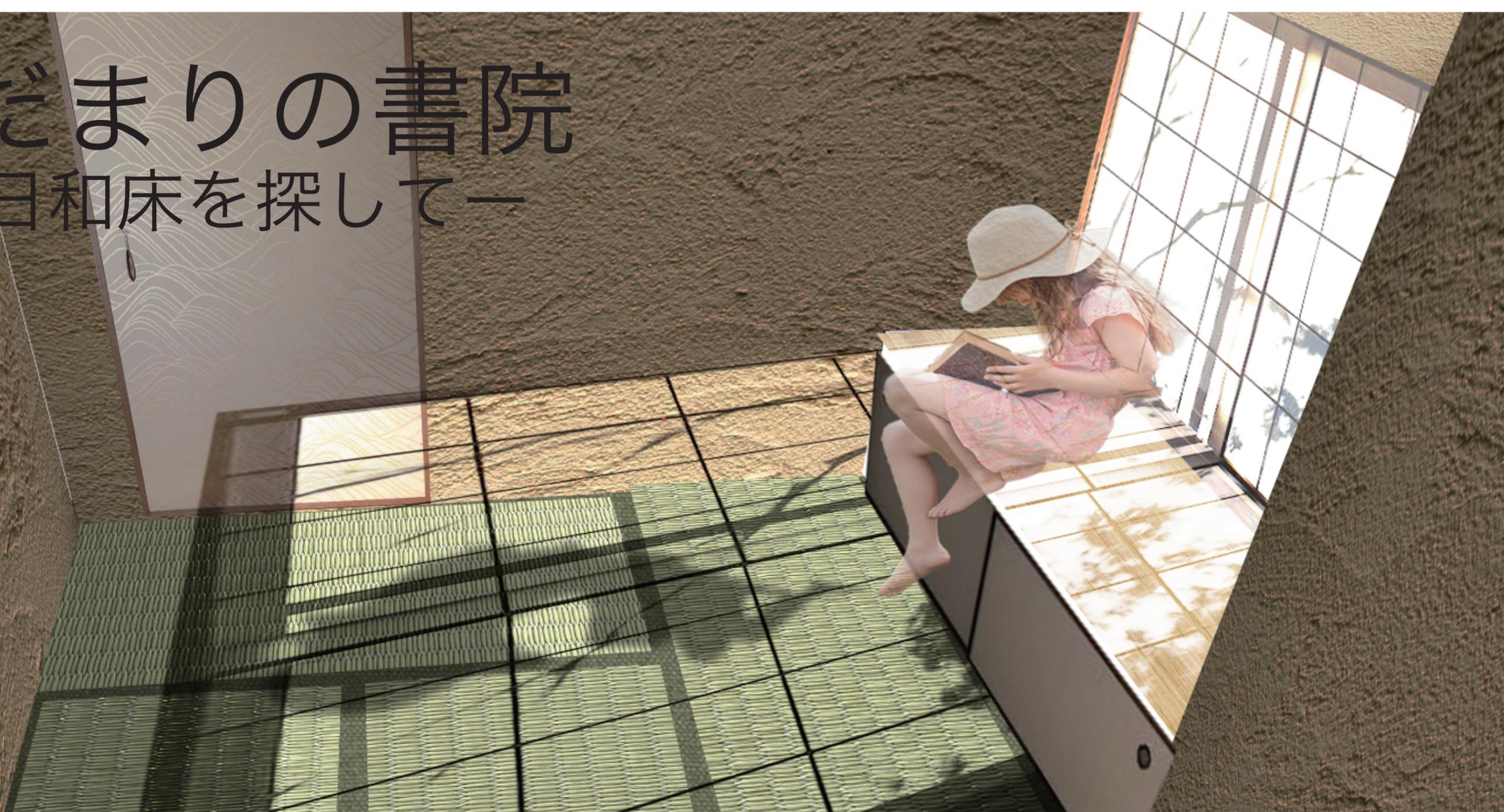


# 日だまりの書院

一日和床を探してー



## 命名手法 「日和床（ひよりどこ）」

出窓の書院甲板に腰掛けて、やわらかく陽射しが差し込む情景を表す

## コンセプト

幼いころ、和室の書院甲板に腰掛けて、本を読むのが好きだった。しかし、そこは本来座る場所ではないと、たびたび叱られた。障子越しの陽光は、朝と夕とで異なる表情を見せる。その光に本をかざしながら、心地よい場所を探す。まるで、自分だけの「日和床」を見つける旅のように。今回の設計では、その記憶をたどり、書院甲板をあえて座る場所とした。光と影の移ろいの中で、それぞれが自分の「日和床」を探す体験をしてほしい。もしかしたら、誰かが「日和どこ？」と、ささやくかもしれない。

